

よくわかる
日本美術史

楽しむための絵 ～江戸に広がった戯画の世界

講師：嵯峨美術大学教授 佐々木正子



絵画はその役割で分類しますと、いくつかに分かれます。
まずは拝むための絵。仏画などですが、宗教行事に使用され、仏の世界を理解するために用いられ、「手を合わす対象」となります。城郭の室内などを飾る襖絵などは、謁見の間、書院などの違いを明確化し、その雰囲気を設定する「格付けを担う」役割を持ちます。また絵巻物や床の間に掛ける軸物などは、「鑑賞するため」の絵です。肖像画や博物学の挿絵、故事など「理解や記録のため」の絵も有ります。

こうした中で、今回は幕末にかけて江戸の地で流行した「娯楽」としての絵画を考えて見たいと思います。絵を見て笑う、絵を見て楽しむという、気軽な娯楽として成立させた戯画も、背景には幕府と庶民との葛藤を抱え、制作者の生涯も大変なところがありました。我が国では評価が低かったこの世界も、ヨーロッパでは一大ジャポニズム旋風を巻き起こし、海外で先に評価されるようになりました。

葛飾北斎、歌川国芳、河鍋暁斎を中心に、江戸庶民の文化としての戯画を社会状況と照らし合わせながら見ていきます。

(講師 記)

開講日：2018年 4月27日、5月25日、6月22日

いずれも第4金曜日 15:30～17:00

受講料：各回3,400円 3回通し 10,000円

会場

IMY (アイエムワイ) ビル会議室
461-0004
愛知県名古屋市東区葵 3-7-14
地下鉄東山線「千種」駅①番出口、桜通線「車道」駅③出口徒歩2分、JR「千種」駅徒歩5分(メルパルク北隣)

お申し込み・お問い合わせは

お申込みは、ご予約のうえ下記口座にお振込み下さい。
三菱東京UFJ銀行 栄町支店
普通0160603 口座名義：創企舎ソフィー
※または当日ご持参下さい。



創企舎 ソフィー

460-0007 名古屋市中区新栄 2-6-13
Tel/Fax 052-684-5894 (直通 090-8474-6363)
Email : soukisha-sophy@gd5.so-net.ne.jp
URL : <http://s-sophy.com>

創企舎ソフィー 検索

